

第25回日本ジオパーク委員会議事録（抜粋）

日時：2015年12月14日（月）13：00-17：00

場所：永田町合同庁舎1階第一共用会議室

出席者：

<委員長>

尾池 和夫 京都造形芸術大学学長（日本地震学会）

<副委員長>

中田 節也 東京大学地震研究所教授（日本火山学会）

<委員>五十音順

阿部 宗広 自然公園財団専務理事（関係団体）

大野 希一 島原半島ジオパーク事務局専門員（日本火山学会）

菊地 俊夫 首都大学東京都市環境科学研究科教授（日本地理学会）

佃 栄吉 産業技術総合研究所理事・地質調査総合センター代表（日本地質学会）

中川 和之 時事通信社解説委員（日本地震学会）

成田 賢 全国地質調査業協会連合会会長（関係団体）

橋詰 潤 明治大学研究・知財戦略機構特任講師（日本第四紀学会）

平田 大二 神奈川県立生命の星・地球博物館館長（日本地質学会）

宮原 育子 宮城大学事業構想学部教授（日本地理学会）

目代 邦康 公益財団法人自然保護助成基金主任研究員（日本第四紀学会）

<顧問>五十音順

伊藤 和明 防災情報機構特定非営利活動法人会長

小泉 武栄 東京学芸大学名誉教授

町田 洋 東京都立大学名誉教授

高木 秀雄 早稲田大学教育・総合科学学術院教授

渡辺 真人 APGN 諮問委員

<関係省庁（オブザーバー）> 建制順（同省内五十音順）

中原 一成 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局総括担当主査

曾根 進 内閣府地方創生推進室内閣官房産業遺産の世界遺産登録推進室参事官補佐

窪田 優希 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）付

若杉 友紀 外務省大臣官房国際文化協力室外務事務官

福田 和樹 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官（日本ユネスコ国内委員会事務局次長）

西川 太郎 文部科学省国際統括官付（日本ユネスコ国内委員会）

柴田 伊廣 文部科学省文化庁文化財部記念物課文部科学技官

高尾 聡 林野庁国有林野部経営企画課課長補佐

尾崎 絵美 林野庁森林整備部計画課調査調整係長

鹿嶋 誠 経済産業省産業技術環境局知的基盤整備推進室

今村 翔太 国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室火山対策係長

池田 喜陽 観光庁観光地域振興部観光資源課係長

榎本 弘	気象庁地震火山部管理課地震津波防災対策室調査官
橋口 祥治	気象庁火山課火山防災情報調整室噴火予知調整係長
宮本 利邦	環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室環境専門員
山本 豊	環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室係長

<事務局>

齋藤 清一	日本ジオパークネットワーク事務局長
内藤 朋子	日本ジオパークネットワーク事務局員
神谷 方子	日本ジオパークネットワーク事務局員

<茨城県北>

委員：三人の審査員の見解は条件付再認定。公開版の2頁め、まずジオサイトと保全について。国立公園、国定公園のエリアはないのだが県立公園があって、県がある程度保全活動をしている場所でもあるのだが、インタープリターによるその説明がない。認識していない可能性がある。化石をどんどんとってあげてしまうということを普通にしている。二番目の教育活動。茨城大学が事務局なので地質情報活用プロジェクトのメンバーがインタープリターと連携して地域教育活動している。その中ではある程度学術的情報の質が保証されて提供されているが、それ以外の情報が学生のなかにはないので地質と他の情報をつないだストーリーがほとんど聞かれない。地層の話と歴史の話をしてその関係がわかっていないのにインタープリターはそれでよいと思っている。ジオストーリーがよくわかっていない。例えば岡倉天心という日本美術史に貢献した人の画廊があるジオサイトで、彼がどういう景観で美術をうみだしたのかの必然性の説明があまりない。すぐ炭酸塩コンクリーションの話ばかり出てくる。また風船爆弾の話とか。なぜその話題がジオパークにかかわっているのか、よくわからないまますすんでしまうジオツアーであった。茨城大学のなかでもジオパークに協力するという先生方が委員会をつくって活動はされているが、実際行っているのは茨城大学地質情報活用プロジェクトと退官された天野名誉教授。茨城大学理学部地質の先生が天心堂に津波の看板を設置したのだが、そこに茨城県北ジオパークのロゴマークが入っていないので指摘した。学内でもそのような連携がとれていない。協議会会長が学長なので、総合大学として様々な切り口で研究していったほしいのだが、実際は大学内でも動いているのはごく限られた部署だけ。三番目の管理組織・運営体制。この中の課題としてはジオパークエリアである日立市、水戸市、大洗町が協議会の会員でなくオブザーバーとしての参加であること。会員でないのにインタープリターが活発に活動している。本当にジオパークとして正式に認められているのかあいまいな地域でジオパークという名前が出され、ジオツアーが展開されているので困ったものだと思う。学長も、2市1町に対し、協議会員になるよう交渉はしているのだが、どうしても日立市は入ってくれない、理由はわからないという状況。事務局には3人おり、一人は臨時職員、事務局長と他の職員は兼務なので、とても7市町村をまとめる機能がない。次にジオツーリズム。ジオネットというインタープリターが作る自主団体があり、それが市町村の担当者と企業（旅行会社）、学生らと連携してジオツアーをきちんと実施している。JTBのウォーキングツアーには2-300人が参加し、インタープリターがそこで地域の見どころを紹介しながら歩く会が好評だった。活動はしているのに、ジオパークに行きたいがどこに聞けばいいのかわからない、茨城県北地域が何をやっているのかが見えないなど外への情報発信ができていない。5番目の国際対応およびネットワーク。英語の看板がある程度であり重要視していない。全国大会やJPGのパブリックセッション

ョンなどに出席して他のジオパークの人々との交流をほとんどしておらず、またそれによしとしているのが問題。ジオパークの保全に対する考え方をジオツアーの中でどのようにストーリーを作っていくか、どんな看板がよいかを議論している中に参加してみないといけない。自分たちだけでよいと思っている「お説教的」な看板しかない。活動は懸命にやっているのにもったいない。防災安全については東日本大震災の被災した箇所に津波の遡上高を表示したり、被災当時のビデオを上映したりしているが、それをどのように教育に活用しているかは確認できなかった。4年前の指摘事項の対応は現地審査の報告書のなかで10項目あり、それぞれの対応が書かれている。その中で非常に重要なものとして「ジオパーク事務局機能の大学から地域への移行」ができていない。ジオストーリーづくり関連が3つくらいあるが十分なものではない。コアセンター、サテライト施設の設置として茨城県庁の25階展望ロビーを拠点施設としたほか、高萩市にあるふるさと自然公園センター、ビジターセンターのような施設に拠点施設を作ったが、ここはインタープリターが手作りで資料を作っており、質的に少々問題があり、サテライト施設としては不十分。化石の発掘は行われていないと報告されているが、実体はそうではなかった。地質関係のジオサイトは充実しているが地球生態系のサイトはやや貧弱である。生物専門のインタープリターの説明については詳細版に記載しているとおり。地域の盛り上がり、インタープリターの活動はすばらしく、民間企業のサポート、筑波銀行をはじめとして地域の方の取り組みも素晴らしい。茨城大学の学生もそれにうまく参加しており地域が盛り上がっているようにしているのだが、事務局がそれを全く把握できていない。自分達はよかれと思って活動しているので質が落ちてきており、残念ながら化石を配ることもよしとしている。とにかく他のジオパークに行き行って勉強してほしい。

委員：前回の課題に対してほとんどできていない。宿題としては指摘事項を2年間で確実に実行することがまず重要。それから組織の再構築。拠点施設も常設されているのではなくて、インタープリターが来て説明したりビデオを流しているだけ。拠点施設はあるといっているが、なきに等しい。

委員長：300名のインタープリターはジオパークのガイドとして養成されたのか？

委員：はい。茨城大学のガイド養成講座を受けてインタープリターが自主的に活動。インタープリター同士で研鑽し合っている。行政はお金を出さなくて、自主的に活動している。ボトムアップ的素地としてすばらしいが、ジオパークの質としては疑問。よそのジオパークの活動を見れば地域の人の活動が変わる可能性もある。もったいない状況。

顧問：風船爆弾とジオとの関わりは？

委員：その説明はない。せいぜい、風船爆弾を飛ばすのにちょうどそこにジェット気流があったことや、風船爆弾を長時間飛ばすために必要なバラストとなる砂を調達するため海岸が近い、という程度。ジオとはほとんど関係ないのでジオツアーでいかないほうがいい。

顧問：4年前に視察に行った際、大学から運営母体を市町村に移すべきだと主張してきたのだが、だんだん市町村がそっぽを向くようになった。インタープリターは熱心にやっていたので、運営についてもっと考える必要があると思った。

委員：救いなのは、県のほうが、県北振興局を作ったこと。その三本の柱のうちの1本がジオパークによる地域振興を打ち出している。もう少し、県がテコ入れしてほしいと言っても一歩引いてしまう。大学がやっているからとか市町村がやっていると言って県はなかなか動かないなかで、県北振興局を作って一応予算をとっている。県がもっと積極的になってくれるとよい。大学のほうは、持続性という観点からすると学長が今年なったばかりで2年後誰になるかわからない。天野さんの後任はいない。学長から指名されたジオパーク担当の教員もとまどっている。

る。職員は文部省からの派遣で2年後にはまた変わってしまう。大学の組織自体が持続性に欠けている。

委員長：天野さんは内外のジオパークをよく見に行っておりよくわかっていると思うので部外者でも声が届くようにすべき。

委員：行政の人はこれでいいと思っている。しかしそれでは続かないということを知ってほしい。

委員長：インタープリターたちを有効にできるような組織の整備が主なところか。

委員：組織とエリア。

委員長：自治体の協力が必要だが可能性はあるか。それには県の協力がある。トップダウンはよくないのだが県北とついているわけなので。以上のような条件を付けて2年後の審査を受けるということではよろしいか。